

原発ゼロの未来へ、福島とともに 3・4 全国集会

吉原毅 メインスピーチ 要旨 (2018年3月4日)

吉原 毅 (原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟会長)

集会のメインスピーチに立った吉川会長のお話の要旨を紹介します。

吉原会長は、原自連についてお話ししました。

「みなさん、こんにちは、私たち原自連というのは、昨年4月14日に、全国で原発訴訟をして原発をなんとか止めていこう、そういう訴訟をしている市民のグループの皆さん、そして、一方で自然エネルギーを、どんどん日本で拡大して、原発なんかに頼らないでやる、日本の国を敷衍していこう、原発を止めていこう、そういう志をもっていらっしゃる市民の方々、約250団体の方々が大同団結して、政治信条、イデオロギー、あるいは主義主張、そういう違いを超えて、いわゆる右の方から左の方まで、保守から革新まで、日本の未来を心配し、そして「よりよい日本をつくるために原発は止めていこう」という観点でつくられた団体であります。

そして、原発訴訟で頑張っている弁護士の河合弘之先生と、それから、この問題につきまして東京都知事選挙以来ずっと取り組んでいらっしゃる細川先生、そして小泉先生が中心となって、会長をあるシンクタンクの理事長さんをお願いしたら、「それはできない、このシンクタンクは経団連の関係だから」ということで、私が会長になって頑張っております。」

原発事故は二度とおこしては「ならない、原発ゼロの決意

「福島第一原発事故が起きたときに電力会社は、原発を止めれば世界は、そして日本は江戸時代に戻ってしまうというような脅しをかけました。私ども城南信用金庫では、この東京、神奈川のお客様と、そして地域に住んでいる人の暮らしを守るためには、原発事故は二度とおこしてはいけない、福島第一、東海、そして浜岡、首都圏近辺にある原発だけでなく、日本には54基の原発があって、わずか2時間電源が途絶えるだけで、あっという間に、あのようなメルトダウンが起きて、日本の国が消失するという大変なリスクを負っていることがわかりました。それにもかかわらず、いまだに原発を再稼働させようとしている。これは絶対にやってはいけない。

そのためには、どうやって原発を止めたら良いか考えた時に、まず、自然エネ

ルギーを推進しよう、そして節電をしよう、そして努力していけば必ずできるはずだ、そのような形で、いろいろ研究してまいりました。

世界の流れは自然エネルギー

「世界は、この福島事故を境として、おとなりの中国、そしてヨーロッパ、アメリカでは、いま自然エネルギーがどんどん拡大しております。原発事故の当時は、太陽光や風力は、原発が世界には 380 基あるようですけども、そのわずか数分の一でしかなかったところが、昨年末では太陽光と風力を合わせると、原発 1000 基ぶんになりました。つまり、原発の 3 倍ぐらいに近づいています。

もうすでに、世界では、どんどん自然エネルギーで、経済をやっております。そして世界の大企業 122 社では、アップルを初めとする多くの企業では、自然エネルギー 100% で経営をするとう宣言をして、それが国際金融市場において受け入れられていますが、日本では、わずか 3 社しかありません。原発に頼っている企業は、世界の経済からも相手にされなくなったというような報道がありました。いま、丸の内の大企業も、世界の国際金融市場から、もはや相手にされなくなっているのではないかと、大変な危機感をもっています。あの原発を一生懸命擁護してきた新聞も、ここ半年において大きくガラット論調が変わっております。」

いまこそ、原発即時ゼロ基本法案の国民の間に盛り上げる

「ですから、ここが勝負どころです。ここで弱気になっちゃいけない。2030 年なんて言っちゃダメなんだと。いま、原発即時ゼロをあくまでも主張して、超党派で各野党に働きかけていただいてですね、原発は即時止めて日本の明るい将来、電力会社もちゃんとつぶれないように配慮した法案なんです。それから、原発立地地域も絶対に経済的に落ち込まないという、そういう手当も考えた現実的な法案なんです。誰も困らない、困るのは原発利権にまみれた一部の方々だけなんです。

国民全員が喜ぶ、そういう原発即時ゼロ基本法案を、ぜひこの集会をきっかけとして、国民の間に盛り上げていただいて実現していくことを心より祈念致します。

私たち原自連も全国をまわって、超党派でみなさんとともに、取り組んでまいります。どうぞ、よろしくお願い致します。」